

現代語訳

童子百物かたり

東北・米沢の怪異譚

吉田綱富／水野道子〔訳〕

孫や曾孫たちが、
そのまた孫や曾孫たちに語ってくれば……。

名君・上杉鷹山に仕え、
94歳の天寿を全うした米沢藩士・吉田綱富が、
その晩年に書き残した『童子百物かたり』。
狐やうそこき名人が活躍する笑い話、
水女や疫病神が登場する怪しい話、
酒呑童子をはじめとする有名説話のバリエーションなど、
民俗学的にも興味深い、
不思議な話の数々。



四六判並製 312 頁

定価 **2300 円** (税別)

目次

まえがき

童子百物かたり

金花山常慶院、狐の釜のこと／高玉村瑞龍院、狐のこと／墓所の釜場へ杭を打って来ること／隅のば様ということ／吉田藤助、疫病の神を見ること／桶屋町籾入六左衛門の疝気のこと／吉田籐左衛門、闇夜にはた物をしまうこと／李山村の多蔵、狐にばかされること／吉田一無、壮年の時大井田伊兵衛と居合稽古のこと／吉田一無、若い時狐にばかされること／古志田村七兵衛、初春に大黒を拾うこと／河内勘大夫、石仏を切ること／石野六左衛門、狐を追うこと／人魂を見ること／篠田何某のこと／吉田藤助、夜中に野合で女に出会うこと／長町七助、初春に鷹を拾うこと／吉田、学館より帰る途中で、異相の野郎を見ること／田滝甚蔵、馬場尻で坊主を見ること／大木のこと／大雷のこと／狼のこと／雷什和尚のこと／草の岡洞昌寺のこと／浅間五右衛門、勇力のこと／吉田一無、弟の浅間五右衛門を捕り伏せること／火付けばのこと／国分何某の嫡子、水女を切ること／浅間五右衛門、塩野村の小桜を投げること／座頭金玉殺されること／若林弥五左衛門のこと／梅沢運平と千眼寺の小僧のこと／陰火を見ること／うそこき名人のこと／奥泉平左衛門、狐待ちすること／白井西雲のこと／丸橋忠弥、傷寒をわずらうこと／白井西雲、棒修練のこと／長命寺の老僧、怪異なものを見ること／西海枝彦兵衛家、二度びっくりのこと／火事場に怪鳥飛ぶこと／化け物のこと／馬下何某、化け物を見ること／若林源兵衛、大音のこと／関戸甚六、弘法大師を捕えること／山道半兵衛のこと／ある人、北御堀端で夜中に老女を助けること／平の友盛のこと／玉石のこと／酒呑童子のこと

解説

あとがき

七月社

〒182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 Tel・Fax 042-455-1385 / e-mail: info@7gatsusha.com

この注文書にて最寄りの書店へお申し込み下さい。書店遠隔の場合などは直接お送りすることもできますので、お問い合わせください。

注文書 (七月社)	現代語訳 童子百物かたり 東北・米沢の怪異譚 吉田綱富／水野道子〔訳〕 本体 2300 円 (税別) / ISBN978-4-909544-03-2 / 七月社	冊	取り扱い店名
	(ご住所) (お名前) (電話番号)		

※書店様へ：ご注文は JRC (FAX 03-3294-2177) へお願いします。JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です。